

12. 中部沿岸 概要

12.1 対象範囲の設定

当会議は、東は小浜港（湯梨浜町泊）から、西は赤碕港（琴浦町赤碕）までを対象とする。

12.2 波浪・漂砂移動について

鳥取沿岸の波高・波向については、以下の傾向がみられる。（2003(H15)～2017(H29)年度の波浪観測データ活用）

【春季～夏季】

- ・ 北北西～北北東方向の波浪が卓越する。一部、西北西の波も発生する。
- ・ 夏季は1m以下の波高に落ち着く傾向にある。

【秋季～冬季】

- ・ 北北西～北北東方向の波浪が卓越する。また、特に冬季には北北西～北方向の波浪が卓越する傾向にある。
- ・ 冬季には波高が1mを超える波が多くなり、時折、3mを超える波も発生する。

【年間】

- ・ 概ね、北北西～北北東方向に波浪が集中する。
- ・ 1年を通し1m以下の波が大半を占めるが、冬季には時折3mを超える波が発生する。

【29年度の状況】

- ・ 春季、夏季、秋季について例年と概ね同じ傾向だが、夏季、秋季の波高がやや高い。
- ・ 例年に比べ、冬季の波浪の頻度がN方向が少なくNW方向が多い傾向がある。

【対象範囲の漂砂移動について】

- ・ 土砂供給源が天神川河口であるため、漂砂系の平均的な土砂動態は、天神川左岸では東側から西側へ、天神川右岸では西側から東側への移動となる。
- ・ 近年、当漂砂系では、河川供給土砂量の減少に加えて、導流堤等の建設により遮蔽域を形成し、卓越沿岸漂砂の阻止に起因する海岸侵食が生じている。



図 1.2.1 漂砂移動イメージ図

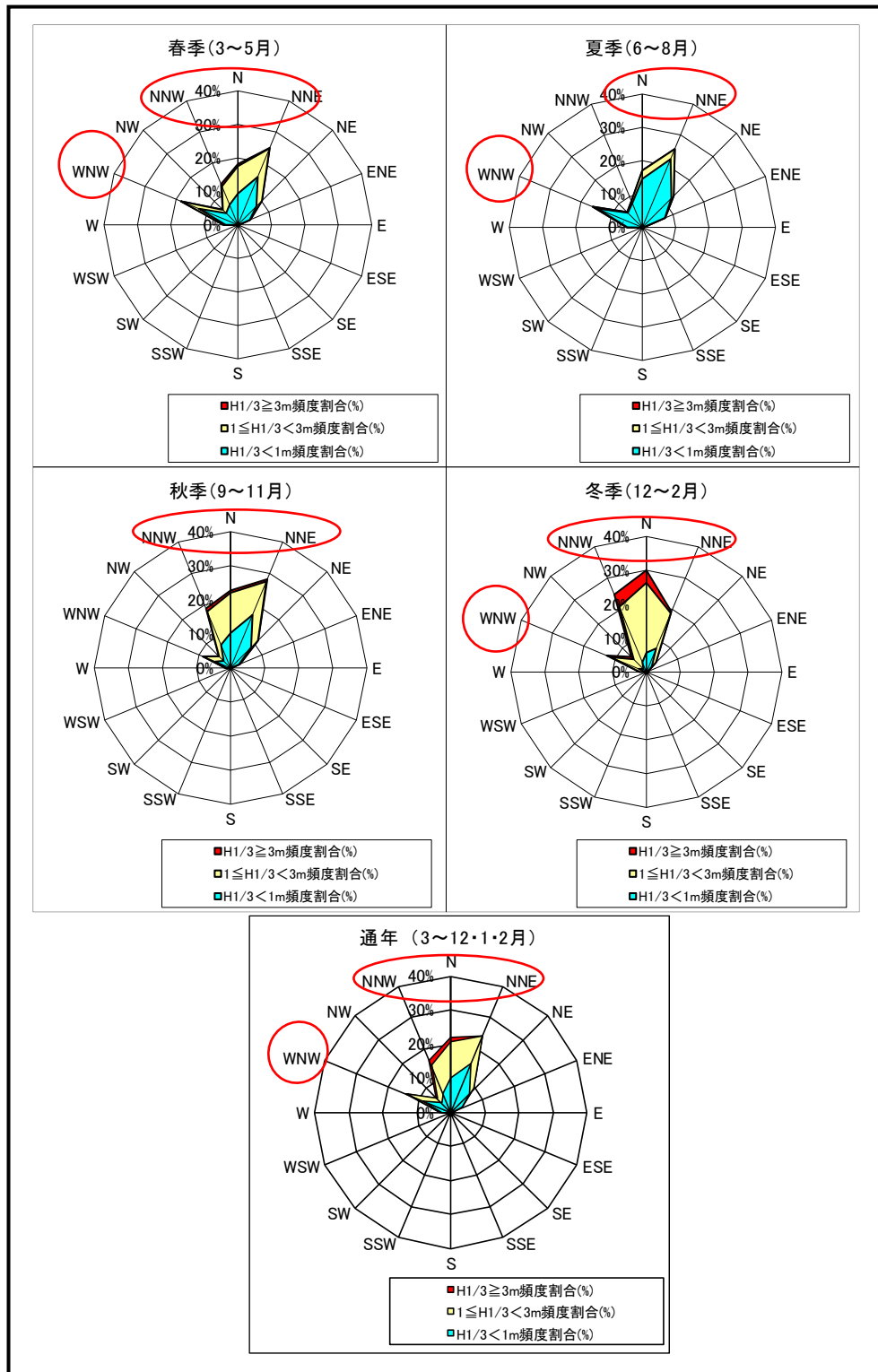


図 12.22.1 有義波高-波向頻度分布図 (2003 年度~2017 年度)
 ナウファス (国土交通省港湾局全国港湾海洋波浪情報網) を活用

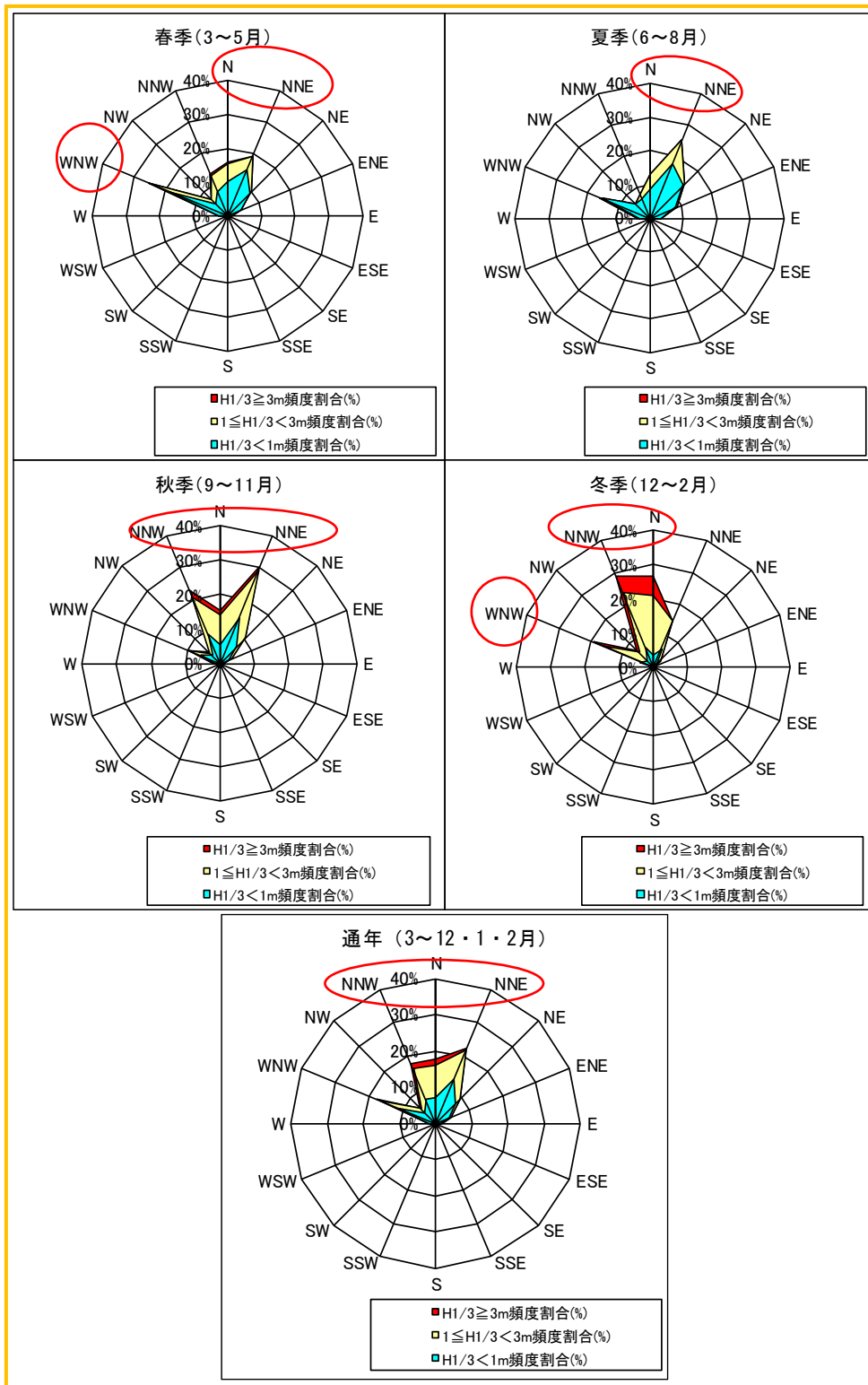


図 12.2.3 28年度の有義波高-波向頻度分布図 (2017.3~2018.2)
 ナウファス (国土交通省港湾局全国港湾海洋波浪情報網) を活用

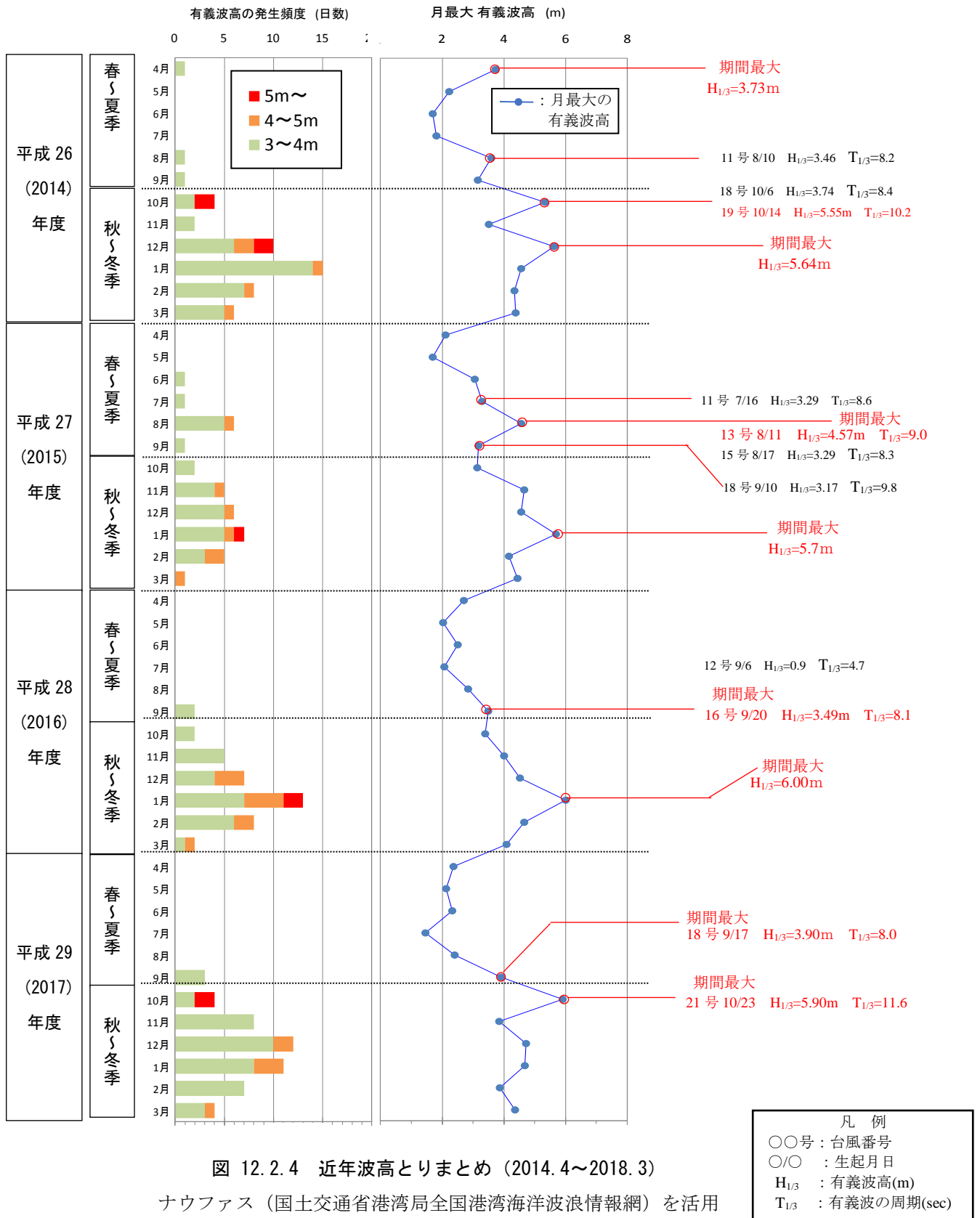


図 12.2.4 近年波高とりまとめ (2014.4~2018.3)

ナウファス (国土交通省港湾局全国港湾海洋波浪情報網) を活用